

**INTEGRATED TYPE SEMICONDUCTOR LASER ELEMENT**

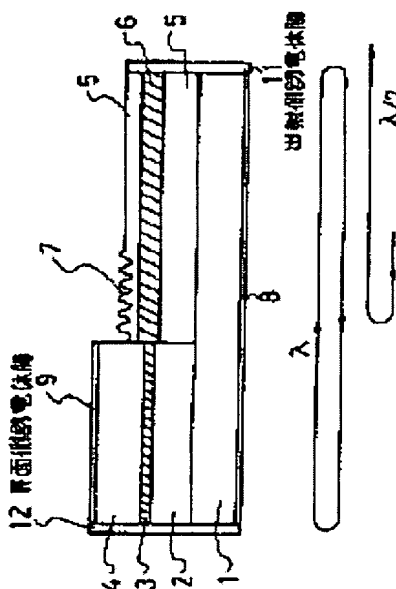
**Patent number:** JP4287389  
**Publication date:** 1992-10-12  
**Inventor:** ISHIKAWA MAKOTO  
**Applicant:** NIPPON ELECTRIC CO  
**Classification:**  
- **international:** G02F1/37; H01S5/026; G02F1/35; H01S5/00; (IPC1-7): G02F1/37; H01S3/18  
- **europaen:**  
**Application number:** JP19910077016 19910315  
**Priority number(s):** JP19910077016 19910315

Report a data error here

**Abstract of JP4287389**

**PURPOSE:** To obtain a small-sized greenish blue laser light source which can be modulated at a high speed and has a high efficiency.

**CONSTITUTION:** GaAs/AlGaAs quantum well type semiconductor lasers 2, 3, and 4 and slab type optical waveguides 5 and 6 composed of ZeSe/ZnS distorted superlattices are monolithically formed on the same n-GaAs substrate through a coupling grating 7. In addition, a dielectric film 12 which highly reflects exciting oscillation light and another dielectric film 11 which highly reflects exciting oscillation light but does not well reflect second harmonics are respectively formed on the end faces of the light emitting and wavelength converting sections. When such constitution is used, the exciting oscillation light of the wavelength converting section is two-dimensionally enclosed not only in an optical waveguide, but also in the axial direction between both dielectric films 11 and 12 having high reflectivity. Such structure yields a high internal light density which is effective for high-efficiency generation of second harmonics. As a result, greenish blue laser light is efficiently obtained from the output-side dielectric film 11.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-287389

(43) 公開日 平成4年(1992)10月12日

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 1 S 3/18		9170-4M		
G 0 2 F 1/37		7246-2K		

審査請求 未請求 請求項の数3(全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平3-77016

(22) 出願日 平成3年(1991)3月15日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 石川 信

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

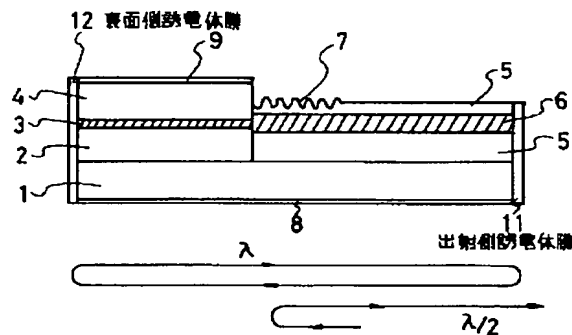
(74) 代理人 弁理士 本庄 伸介

(54) 【発明の名称】 集積型半導体レーザー素子

(57) 【要約】

【目的】 高速変調が可能で、効率が高い小型の緑青色レーザー光源を実現する。

【構成】 GaAs/AlGaAs 量子井戸型半導体レーザー2, 3, 4とZnSe/ZnS歪超格子から成るスラブ型光導波路5, 6を、結合グレーティング7を介してn-GaAs 1の同一基板上にモノリシックに形成する。さらに発光部端面に励起発振光に対して高反射の誘電体膜12を、波長変換部端面には、励起発振光に対して高反射かつ第二高調波に対して低反射の誘電体膜11を形成する。この構成では、波長変換部の励起発振光は光導波路により二次元的に閉じ込められるだけでなく、反射率の高い両誘電体膜間11, 12で軸方向にも閉じ込められる。これは第二高調波の高効率発生に有効な高い内部光密度をもたらす。この結果出力側誘電体膜11から効率よく緑青色レーザー光が得られる。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 互いに光学的に結合した発光部と波長変換部との二領域をGaAs基板上に構成してなる集積素子において、前記発光部には、発振波長λのGaAs/AlGaAsまたはInGaAs/AlGaAsダブルヘテロ型半導体レーザが形成されており、前記波長変換部には、ZnSe/ZnS歪超格子から構成されるスラブ型光導波層が形成されており、前記発光部の端面には波長λに対して高反射率の誘電体多層膜が形成されており、前記波長変換部の端面には波長λに対するよりも波長λ/2に対して低い反射率を示す誘電体多層膜が形成されていることを特徴とする集積型半導体レーザ素子。

【請求項2】 互いに光学的に結合した発光部と波長変換部との二領域をGaAs基板上に構成してなる集積素子において、前記発光部には、発振波長λのGaAs/AlGaAsまたはInGaAs/AlGaAsダブルヘテロ分布反射型半導体レーザが形成されており、前記波長変換部には、ZnSe/ZnS歪超格子から構成されるスラブ型光導波層が形成されており、前記発光部の端面には波長λに対して高反射率の誘電体多層膜が形成されており、前記波長変換部の端面には波長λに対するよりも波長λ/2に対して低い反射率を示す誘電体多層膜が形成されていることを特徴とする集積型半導体レーザ素子。

【請求項3】 前記発光部と波長変換部との結合部の近傍における前記波長変換部に周期 $(2m+1)\lambda/4n_{\text{eff}}$  ( $n_{\text{eff}}$ :波長変換部の等価屈折率、m:正の整数)のグレーティングが形成されていることを特徴とする集積型半導体レーザ素子。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は光情報処理、光計測等に有用な緑青色レーザ光源に関し、特に緑青色帯の光を発生する集積型半導体レーザ素子に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 緑青色レーザ光源は、光計測に広く用いられているが、光計測以外の分野でも光ディスク用の光源として高密度化が可能となるので、近年その需要が高まっている。光ディスクに応用する場合には小型化が必須であるが、小型であってしかも高い効率で発振する半導体レーザでは、現在のところ緑青色発振が得られていない。そこでGaAs/AlGaAs半導体レーザからの0.8μm帯の発振光を非線形光学素子に入力し、緑青色の第2高調波(SHG)を得る研究が活発となっている。図5は、従来の第2高調波を利用した緑青色レーザの構成例である(電子通信技術研究報告 OQE90-23)。半導体レーザ14からの0.81μmの発振光は、結合光学系15を経て、共振器内に設置したNd:YAGロッド16に入力される。励起光により反転

2

分布状態となったNd:YAGは、1.064μmの発振光を出射するが非線形光学素子のKTP17が同じ共振器内に設置してあるため、第2高調波である0.532μmの緑色レーザ光が出力反射鏡18から出射される。SHGの変換効率は入射光密度に比例するが、図5の構成例ではKTP17が共振器内に設置されているから、共振器内の高い光密度を利用でき、高い効率で緑色SHG発光が得られる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら従来の技術では、共振器を構成するミラーだけでなく励起用半導体レーザ14の発振光をNd:YAGロッド16に導く結合光学系15が必要となるから、装置の小型化には限界がある。さらに図5の構成では、半導体レーザ14を励起源としてNd:YAGレーザを発振させ、その発振光からSHG光を取り出すという、二段階のプロセスを経ている。従って入力電力に対して得られるSHG出力が小さく、低消費電力化が困難である。加えてこの方法では、Nd:YAGレーザの緩和時間が長いので光ディスクの書き込みで必要な~MHz以上の高速変調が不可能である。こうした小型化、低消費電力化及び高速変調が従来の技術の課題であった。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 前述の課題を解決するために本発明が提供する手段には三つあり、その第1は、互いに光学的に結合した発光部と波長変換部との二領域をGaAs基板上に構成してなる集積素子において、前記発光部には、発振波長λのGaAs/AlGaAsまたはInGaAs/AlGaAsダブルヘテロ型半導体レーザが形成されており、前記波長変換部には、ZnSe/ZnS歪超格子から構成されるスラブ型光導波層が形成されており、前記発光部の端面には波長λに対して高反射率の誘電体多層膜が形成されており、前記波長変換部の端面には波長λに対するよりも波長λ/2に対して低い反射率を示す誘電体多層膜がそれぞれ形成されていることを特徴とする。

【0005】 本発明が提供する第2の手段は、互いに光学的に結合した発光部と波長変換部との二領域をGaAs基板上に構成してなる集積素子において、前記発光部には、発振波長λのGaAs/AlGaAsまたはInGaAs/AlGaAsダブルヘテロ分布反射型(DBR)半導体レーザが形成されており、前記波長変換部には、ZnSe/ZnS歪超格子から構成されるスラブ型光導波層が形成されており、発光部の端面には、波長λに対して高反射率の誘電体多層膜が形成されており、前記波長変換部の端面には、波長λに対するよりも波長λ/2に対して低い反射率を示す誘電体多層膜が形成されていることを特徴とする。

【0006】 本発明が提供する第3の手段は、前記一つ目または二つ目の構造において、前記発光部と波長変換

3

部との結合部の近傍における前記波長変換部に周期  $(2m+1)\lambda/4n_{eff}$  ( $n_{eff}$ : 波長変換部の等価屈折率、 $m$ : 正の整数) のグレーティングが形成されていることを特徴とする。

【0007】

【作用】本発明の第1の構造では、GaAs/AlGaAs-SCH量子井戸活性層3で発生した発振光は直接結合したZnSe/ZnS歪超格子光導波層6を経由して、両端面に反射鏡として形成されている誘電体膜11、12の間で共振する。ZnSe、ZnSは尖歪鉛鉛型の結晶構造であるから $\sim 200 \times 10^{-9}$  eVの高非線形光学定数を持ち、かつワイドギャップの半導体であるから0.4  $\mu$ m以上の光に対して透明である。従って光導波層6において、 $\sim 0.8 \mu$ mの発振光の第二高調波を効率よく発生することができる。この構造では、両端面に誘電体膜11、12で形成された高反射ミラーとなる共振器の内部に非線形光学媒体が設置されており、加えてこの非線形光学媒体には二次元的な光閉じ込めを可能とする光導波路が形成されているので高い光密度を容易に実現することができる。第二高調波の変換効率は光密度に比例するので、高光密度は高効率変換をもたらす。この際両領域結合部近傍に、発振波長 $\lambda$ に対して周期  $(2m+1)\lambda/4n_{eff}$  ( $n_{eff}$ : 波長変換部の等価屈折率、 $m$ : 正の整数) の結合グレーティング7を形成することにより、発振光はこの部分を透過できるが、第二高調波は透過できないようにすることができる。従って波長変換部で発生した高調波は、発光部に入射して吸収されることなく、透過特性をもつ出力側誘電体膜11から効率よく取り出すことができる。

【0008】本発明の第2の構造ではDBRグレーティング13を設けることができる。この構造では、GaAs/AlGaAs-SCH量子井戸活性層3で発生した光は、誘電体膜12とDBRグレーティング13の間で共振する。発振光は直接結合で非線形光学媒体であるZnSe/ZnS歪超格子光導波層6に導かれる。しかし出力側誘電体膜11も発振光に対して高反射となっているから、発振光はDBRグレーティング13と誘電体膜11の間で再び共振する。この際に発振光は、DBRグレーティング13のブラッグ波長によって決定されるから、DBRグレーティング13で選択された発振光は波長変換部でも必ず共振する。加えてこの構造でも、二次元的な光閉じ込めを可能とする光導波路が形成されているので、高効率変換に有利な高い光密度を容易に実現することができる。

【0009】さらに第1、第2いずれの構造でも、半導体レーザからの発振光を直接結合で非線形光学媒体に導いているので、むだな損失がなく入力電力に対する変換効率も高い。また半導体レーザは、緩和時間が極めて短い $\sim$ GHz領域まで直接変調が可能であり、光ディスクの書き込み用光源にも適用できる。本発明の集積型

4

半導体レーザ素子はGaAs基板上にモノリシックに形成されており、個別の半導体レーザと同程度の極めて小型の光源である。以上より本発明の構造では、高効率で直接変調可能な超小型の緑青色レーザ光源を実現することができる。

【0010】

【実施例】以下に図面を参照して本発明の実施例を詳しく説明する。図1及び図2はそれぞれ本発明の第1の構造に係る一実施例を示す構造斜視図および断面図である。まずn-GaAs基板1上にMOVPEまたはMBE等の気相成長法を用いて、n-AlGaAsクラッド層2、GaAs/AlGaAs-SCH量子井戸活性層3、p-AlGaAsクラッド層4を順次積層する。量子井戸活性層3は層厚70 $\sim$ 100ÅのGaAs井戸層とAlGaAs光ガイド層から成るSCH構造である。次にウエットエッチングまたはドライエッチングを用いて部分的に成長層2、3、4を除去した後、再びMOVPE気相成長法を用いて除去した部分にノンドープのZnSe/ZnS歪超格子クラッド層5、ZnSe/ZnS歪超格子光導波層6、ZnSe/ZnS歪超格子クラッド層5を順次に選択的に成長させる。この時、量子井戸活性層3と光導波層6の位置を一致させておくことが重要である。ZnSe、ZnSはGaAsに対してそれぞれ+0.3%、-4.6%の格子不整をもっているが、数10Å程度の薄膜で超格子を形成すればミスフィット転位も発生せず、良好なエピタキシャル成長層を得ることができる。この際例えば、光導波層6ではZnSe:10Å/ZnS:10Åの超格子、クラッド層5ではZnSe:10Å/ZnS:20Åの超格子というようにZnSの層厚に対するZnSeの層厚を光導波層6ではクラッド層5よりも高めて設定する。ZnSeはZnSより屈折率が大きいため、光導波層6の平均的な屈折率はクラッド層5のそれより高くなり、発振光を効果的に導波することが可能となる。また超格子層のバンドギャップは、ほぼ平均組成で与えられると考えられるため、ZnSe:10Å/ZnS:10Åの超格子からなる光導波層6の等価バンドギャップは $\sim 3.15$  eVとなる。従って光導波層6は $\sim 0.4 \mu$ m以上の光に対しては透明となり、 $\sim 0.8 \mu$ mの発振光およびその第二高調波を吸収することなく導波することができる。また光導波層6の層厚を制御することにより、発振光の等価屈折率と第二高調波の等価屈折率とを一致させることができる。従って光導波層6の層厚を適切に制御することにより、高効率変換には不可欠な位相整合条件を満足させることができる。次に波長変換部の両領域結合部近傍に、二光束干渉露光法により周期  $(2m+1)\lambda/4n_{eff}$  ( $n_{eff}$ : 波長変換部の等価屈折率、 $m$ : 正の整数、 $\lambda$ : 発振光波長) の結合グレーティング7を形成する。さらに水平横モードを制御するためのリッジ構造をウェットエッチングまたはドライエッチングにより形成

5

し、n電極8、p電極9および誘電体保護膜10を形成する。この場合P電極9は発光部のみに形成する。最後に発光部端面に $\sim 0.8 \mu\text{m}$ の発振光に対して高反射となる誘電体膜12を、波長変換部端面には $\sim 0.8 \mu\text{m}$ の発振光に対して高反射かつ $\sim 0.4 \mu\text{m}$ の第二高調波に対して低反射となる誘電体膜11を形成して本発明に係わる一実施例の構造が完成する。

【0011】図3及び図4はそれぞれ本発明の第2の構造に係わる実施例を示す構造斜視図および断面図である。前述の図1及び図2の構造と同様に発光部と波長変換部にそれぞれエピタキシャル成長した後、発光部の両領域結合部近傍に二光束干渉露光法によりDBRグレーティング13を形成する。DBRグレーティング13の周期は、発振光 $\lambda$ に対して反射として作用するように $m\lambda/2n_{eff}$  ( $n_{eff}$ :発光部の等価屈折率、 $m$ :正の整数)とする。非注入とした量子井戸層は、その発振光に対して低損失な導波路となるため、この構造で高効率なDBR発振が得られる。その後は前述の構造と同様に、結合グレーティング7、n電極8、p電極9、誘電体保護膜10、出射側誘電体膜11、裏面側誘電体膜12を形成する。この際p電極9は、DBRグレーティング13を除いた発光部のみに形成する。この結果、本発明に係わる第二の実施例の構造が完成する。

【0012】本発明の第1の構造では、GaAs/AlGaAs-SCH量子井戸層3で発生した発振光は直接結合したZnSe/ZnS歪超格子光導波層6を經由して、両端面に反射鏡として設けられた誘電体膜11、12の間で共振する。ZnSe、ZnSは尖歪鉛鉱型の結晶構造であるから $\sim 200 \times 10^{-9} \text{esu}$ の高い非線形光学定数を持ち、かつワイドギャップの半導体であるから $0.4 \mu\text{m}$ 以上の光に対して透明である。従って光導波層6において、 $\sim 0.8 \mu\text{m}$ の発振光の第二高調波を効率よく発生することができる。この構造では、両端面の誘電体膜11、12でなる高反射ミラーで構成された共振器の内部に非線形光学媒体が設置されており、加えてこの非線形光学媒体には二次元的な光閉じ込めを可能とする光導波路が形成されているので、高い光密度を容易に実現することができる。第二高調波の変換効率は入射光密度に比例するので、高光密度は高効率変換をもたらす。この際両領域結合部近傍には、発振波長 $\lambda$ に対して周期 $(2m+1)\lambda/4n_{eff}$  ( $n_{eff}$ :波長変換部の等価屈折率、 $m$ :正の整数)の結合グレーティング7を形成することにより発振光はこの部分を透過できるが、第二高調波は透過できない。従って波長変換部で発生した高調波は、発光部に入射して吸収されることなく、透過特性をもつ出力側誘電体膜11から効率よく取り出すことができる。

【0013】本発明の第2の構造では、GaAs/AlGaAs-SCH量子井戸層3で発生した光は、裏面側誘電体膜12とDBRグレーティング13の間で共振す

6

る。発振光は直接結合で非線形光学媒体であるZnSe/ZnS歪超格子光導波層6に導かれる。しかし出力側誘電体膜11も発振光に対して高反射となっているから、発振光はDBRグレーティング13と誘電体膜11の間で再び共振する。この際発振光は、DBRグレーティング13のブラッグ波長によって決定されるので、DBRグレーティング13で選択された発振光は波長変換部でも必ず共振する。加えてこの構造でも、二次元的な光閉じ込めを可能とする光導波路が形成されているから、高効率変換に有利な高い光密度を容易に実現することができる。

【0014】さらに第1、第2いずれの構造でも、半導体レーザからの発振光を直接結合で非線形光学媒体に導いているので、むだな損失がなく入力電力に対する変換効率も高い。また半導体レーザは、緩和時間が極めて短いためGHz領域まで直接変調が可能であり、光ディスクの書き込み用光源にも適用できる。本発明の緑青色光源はGaAs基板上にモノリシックに形成されており、半導体レーザと同程度の極めて小型の光源である。以上より本発明の構造では、高効率で直接変調可能な超小型の緑青色レーザ光源を実現することができる。

【0015】以上に示した本発明の実施例では、GaAs/AlGaAs量子井戸を用いたリッジ導波型横モード制御構造を示したが、InGaAs/AlGaAs歪量子井戸を用いてもよく、また他の横モード制御構造を用いても全く同様の構造を形成することができる。

【0016】

【発明の効果】以上に実施例を挙げて詳しく説明したように、本発明によれば、小型で、消費電力が低く、しかも高速に変調でき、緑青色光を出力する集積型半導体レーザ素子を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例に係わる構造斜視図である。

【図2】図1の実施例に係わる断面および共振状態を示す図である。

【図3】本発明の別の実施例に係わる構造斜視図である。

【図4】図3の実施例に係わる断面および共振状態を示す図である。

【図5】従来の技術により緑青色光を得る構成を示す図である。

【符号の説明】

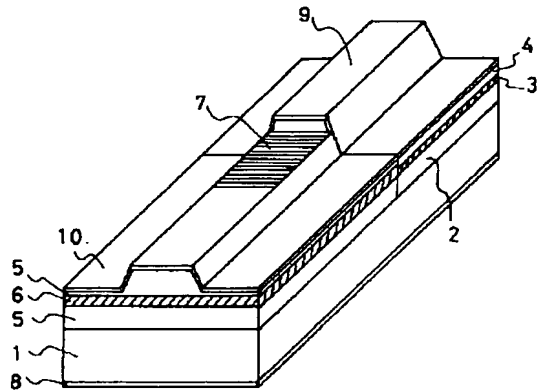
- |   |                        |
|---|------------------------|
| 1 | n-GaAs基板               |
| 2 | n-AlGaAsクラッド層          |
| 3 | GaAs/AlGaAs-SCH量子井戸活性層 |
| 4 | p-AlGaAsクラッド層          |
| 5 | ZnSe/ZnS歪超格子クラッド層      |
| 6 | ZnSe/ZnS歪超格子光導波層       |
| 7 | 結合グレーティング              |
| 8 | n電極                    |

(5)

特開平4-287389

- 9 p 電極  
10 誘電体保護膜  
11 出射側誘電体膜  
12 裏面側誘電体膜  
13 DBRグレーティング

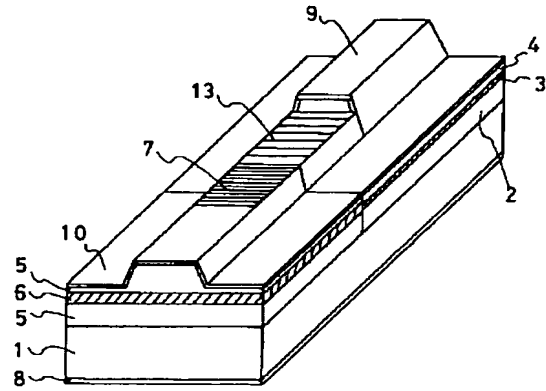
【図1】



- 2 n-AlGaAs クラッド層  
3 GaAs/AlGaAs SCH 量子井戸活性層  
4 p-AlGaAs クラッド層  
5 ZnSe/ZnS 歪超格子クラッド層  
6 ZnSe/ZnS 歪超格子光導波層  
7 結合グレーティング

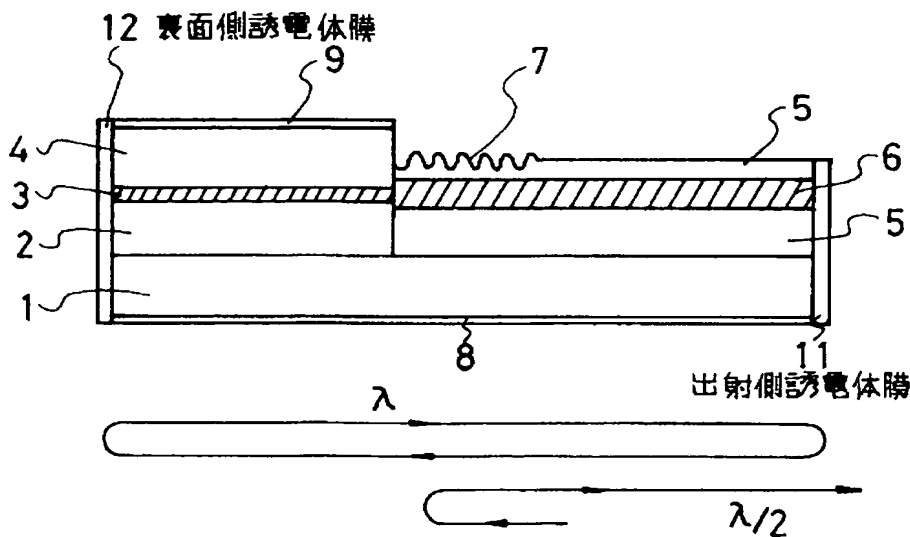
- 14 半導体レーザ  
15 結合光学系  
16 Nd:YAG  
17 KTP  
18 出力反射鏡

【図3】

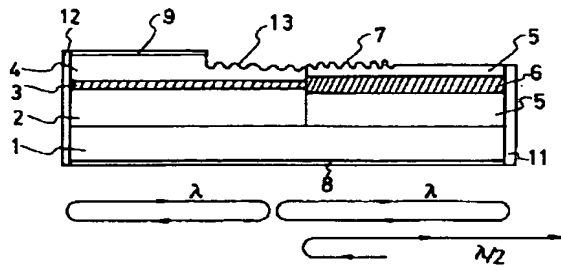


- 2 n-AlGaAs クラッド層  
3 GaAs/AlGaAs SCH 量子井戸活性層  
4 p-AlGaAs クラッド層  
5 ZnSe/ZnS 歪超格子クラッド層  
6 ZnSe/ZnS 歪超格子光導波層  
7 結合グレーティング  
13 DBRグレーティング

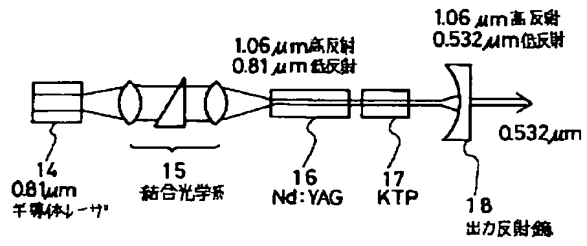
【図2】



【図4】



【図5】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**